

--- 速 報 ---

第12回インテリアプランコンテスト最終選考の結果発表 後程、正式にご報告いたします。

今年で第12回をむかえますインテリアプランコンテストの最終選考の結果発表です。
※下記にて受賞作品の作品写真と氏名を、発表しております。

一次審査(図面審査)では応募総数88作品の中から10作品が選ばれ、二次審査(模型審査)で最優秀賞(1名)・優秀賞(2名)が選ばれました。

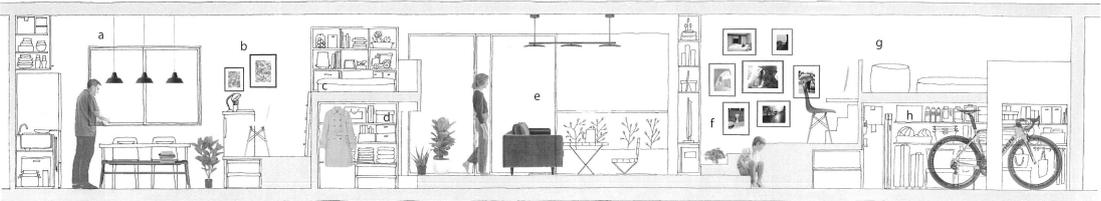
最 優 秀 賞

京都府立大学 島田涼さんの作品

作品名: のぼって、おりて。

のぼって、おりて。

共働きの親と子供と一緒に居られる時間はあまり多くない。そんな家族に対してどの部屋にいてもお互いが見えるような家を提案する。
従来の賃貸マンションは直方体の箱を入れるように縦方向に分割されていた。このプランでは空間を縦方向、垂直に分割することで家全体を一つの空間として感じられる。



a 土間のダイニングは家族の集まる場所 c はしごを登ると子どもの寝室 e 一段上がると日当たりの良いリビング g 寝室からは家が見渡せる
b ダイニングに面した子どもの勉強机 d 下は家族のクローゼット f 広めの階段でちょっと本でも h 玄関の横には土間の収納



垂直方向の間仕切り 水平方向の間仕切り



| | | |
|---|-------------|-------|
| 1 | LIVING ROOM | +200 |
| 2 | STUDY | +700 |
| 3 | BEDROOM | +1500 |
| 4 | KIDS ROOM | +1500 |
| 5 | KIDS STUDY | +500 |
| 6 | DINING ROOM | +0 |
| 7 | BATHROOM | +0 |

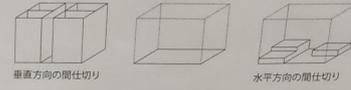
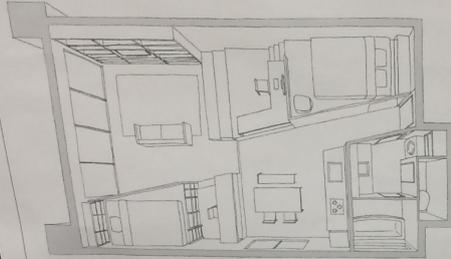
平面図 S=1:100

のぼって、おりて。

共働きの親と子供と一緒に居られる時間はあまり多くない。そんな家族に対してどの部屋にいてもお互いが見えるような家を提案する。
従来の賃貸マンションは直方体の箱を入れるように縦方向に分割されていた。このプランでは空間を縦方向、垂直に分割することで家全体を一つの空間として感じられる。



- a 土間のダイニングは家族の集まる場所
- b ダイニングに面した子どもの勉強机
- c はしごを登ると子どもの寝室
- d 下は家族のクローゼット
- e 一段上がると日当たりの良いリビング
- f 広めの階段でちょっと本でも
- g 寝室からは家が見渡せる
- h 玄関の横には土間の収納



- 1 LIVING ROOM +200
 - 2 STUDY +700
 - 3 BEDROOM +1500
 - 4 KIDS ROOM +1500
 - 5 KIDS STUDY +500
 - 6 DINING ROOM +0
 - 7 BATHROOM +0
- 平面図 S=1:100



作品NO : 8
氏名 : 島田 涼
作品名 : のぼって、おりて。
学校名 : 京都府立大学

優秀賞

大阪工業技術専門学校 勢旗樹さんの 作品

作品名:「間」のある空間

「間」のある空間

日本独特の感覚である「間」に着目した住戸
SNSが発展した今日、外にいても中にも情報が溢れかえって何も無い空間というのは失われている。したがって今計画では、何も無い空白の空間を設ける事で新しい住戸ができるように考えた。
今回は、壁で区切るのではなく柱を立て屋根をかける事で2つの空間を繋ぐような「第3の空間」を作り「生活の場・生活/趣味の場・趣味の場」という3つの場を緩やかに繋いだ。
この「第3の空間」は、それぞれの空間をいろんな角度から見ることができ、その中で自分の生活に新たな発見や豊かさ、楽しさを見出す余裕のある空白の空間になる。今回重要視したのは、曖昧な境界線を作る「柱」2つの空間を繋ぐ「縁側」忙しい生活に対して静かな何も無い「空白」の空間など、日本人独特の感性・意匠を用いて新しい空間を目指し、計画して出来たのが間のある空間である。間【あい】(意味:すさま、絶え間。)間【ま】(意味:一続きの物事に生じた、途切れ)間【あわい】(意味:向かい合うものあいだ。また、その関係)といった様々な「間」のある空間となった。

Plan S=1/100

Diagram
どの場所にも機能が詰まっている今までの住戸
黒の部分は生活する場や作業する場といった機能が入っている部分を表している。
本当に何も無い場所とは存在せず、必ず何かがあるのが現代の住戸である。

柱が立ち屋根をかけた部分が「空白」の部分となり何も無い空間を表している。
この空間は2つの空間を繋ぐ中間領域であり機能を持つ空間の間【あい】である。
空白の空間こそ現代の部屋における真に心の休まる空間であると考えた。

従来の計画
今回の計画

PRIVATE SPACE HIGH
PRIVATE SPACE LOW
LIFE SPACE

玄関から奥に進むほど個人の空間が強くなっていく。しかし、壁ではなく柱を立てることでその空間を緩やかに繋いでおり、仕切らないことで奥行きを作り部屋全体を広く見せている。

作品NO: 1
氏名: 勢旗樹
作品名: 「間」のある空間
学校名: 大阪工業技術専門学校

優秀賞

大阪建設専門学校 後藤駿弥さんの 作品

作品名: テーブルが作る自由な空間

テーブルがつくる自由な空間

Concept
休日を楽しむための住宅
印象的なテーブルの活用には様々な役割が与えられておらず、そのときの気分や用途に合わせて場所を選択することで、豪華や閑寂、競技を楽しむなど、時には異なったりの物理をひとつと、一つの空間で異なる存在を感じながら、自由で多様なアクションをとることが出来る家

WIC / 寝室
玄関も来客用とは別に設けられ、唯一家主のプライベートな空間として設けられる居住空間。
二枚ベッドの下にはフリーなスペースがとられているので、収納だけでなく生活に必要な要素を取り入れることも可能。

キッチン、作業スペース
部屋の中心部には、大人数が集まったときにみんなで料理ができるようなキッチンがあり、収納も充実した作業スペースも併設されているので、そのままバルコニーや土間側にまで広がって、賑やかなホームパーティーを展開することが出来る。

1,350 450 1,800 1,000 2,700
1,000 800 800
3,850 1,000 1,650 1,600 1,600 9,900
4,250 1,110 1,200 2,550 1,000 1,000 1,000
1,250 1,800 1,300 1,300 1,300
A-A' 断面図 (1/100) 平面図 (1/50)

土間スペース
玄関から広がる土間スペースは、土居のまま入ることができ、正面に設けられる交差スペースにまで、来客が自然に集まれる導線の役割をもつ。

パブリックスペースの収納
コアを囲むように設置されたテーブルの下は手前な収納スペースになっており、人を抱いたときにものが散らかる心配がない。

Pattern
この家では、用を足すのも自分次第。
「ここはこういうところ」という一つの用途に縛られないよう、このテーブルが柔軟で自由な生活を営めるように導いてくれる。

隣にフリースペースと土間が広がっており、空間に余裕がある。
土間からフローリングに繋げると会話も弾むかもしれない。

普段一人で居るときは通常のリビングテーブルとして、大人数のときは作業スペースとして、用途の幅が広く、

唯一用途が決められた部分、周辺のスペースと連続させて楽しく設備ができる。

最も用途に個性が出るであろう斜めの部分。
お花などを飾って影を落とすことも考えられる。

要所、バルコニー側は方角を一変させており、デスクワークや一人での食事などに適している。

テーブルがつくる自由な空間

Concept
休日を楽しむための住宅
印象的なテーブルの活用には様々な役割が与えられておらず、そのときの気分や用途に合わせて場所を選択することで、豪華や閑寂、競技を楽しむなど、時には異なったりの物理をひとつと、一つの空間で異なる存在を感じながら、自由で多様なアクションをとることが出来る家

WIC / 寝室
玄関も来客用とは別に設けられ、唯一家主のプライベートな空間として設けられる居住空間。
二枚ベッドの下にはフリーなスペースがとられているので、収納だけでなく生活に必要な要素を取り入れることも可能。

キッチン、作業スペース
部屋の中心部には、大人数が集まったときにみんなで料理ができるようなキッチンがあり、収納も充実した作業スペースも併設されているので、そのままバルコニーや土間側にまで広がって、賑やかなホームパーティーを展開することが出来る。

1,350 450 1,800 1,000 2,700
1,000 800 800
3,850 1,000 1,650 1,600 1,600 9,900
4,250 1,110 1,200 2,550 1,000 1,000 1,000
1,250 1,800 1,300 1,300 1,300
A-A' 断面図 (1/100) 平面図 (1/50)

土間スペース
玄関から広がる土間スペースは、土居のまま入ることができ、正面に設けられる交差スペースにまで、来客が自然に集まれる導線の役割をもつ。

パブリックスペースの収納
コアを囲むように設置されたテーブルの下は手前な収納スペースになっており、人を抱いたときにものが散らかる心配がない。

Pattern
この家では、用を足すのも自分次第。
「ここはこういうところ」という一つの用途に縛られないよう、このテーブルが柔軟で自由な生活を営めるように導いてくれる。

隣にフリースペースと土間が広がっており、空間に余裕がある。
土間からフローリングに繋げると会話も弾むかもしれない。

普段一人で居るときは通常のリビングテーブルとして、大人数のときは作業スペースとして、用途の幅が広く、

唯一用途が決められた部分、周辺のスペースと連続させて楽しく設備ができる。

最も用途に個性が出るであろう斜めの部分。
お花などを飾って影を落とすことも考えられる。

要所、バルコニー側は方角を一変させており、デスクワークや一人での食事などに適している。

作品NO : 4
氏名 : 後藤 駿弥
作品名 : テーブルが作る自由な空間
学校名 : 大阪建設専門学校